

# つくばみらい市は今年で20歳を迎えます。

つくばみらい市は、平成18年3月27日に伊奈町と谷和原村が合併して誕生しました。そして、今年がつくばみらい市の誕生から20年という大きな節目を迎えます。今月号の特集では、市制20年のあゆみをご紹介します。  
 図 伊奈庁舎秘書広報課（内線1101、1102）

## 市制施行20周年記念 ロゴマーク・キャッチフレーズをご紹介します

令和7年12月、市民の皆さんから募集していた、20周年をお祝いするロゴマークとキャッチフレーズが決定しました。

### ロゴマーク



ぼくたちが大人になるころも残したいものを描きました。「2」は稲穂です。窓から田んぼ、桜、菜の花、筑波山が見え、ひばりも空を飛び、電車も走る、便利だけど自然豊かな未来のつくばみらい市をイメージしました。  
 (鈴木 悠斗さん)



### キャッチフレーズ

**未来へつなぐ、  
自然と笑顔が育つまち。**

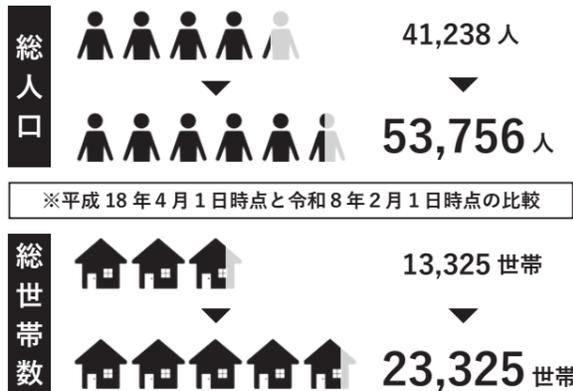
つくばみらい市の豊かな自然環境と、そこで育まれる人々の笑顔、そして未来への発展性を表現しています。子育て世代にも魅力的な、希望に満ちた街のイメージを伝えたいという思いを込めています。  
 (横塚 麗奈さん)



## 20年間でどう変わった？ つくばみらい市の昔と今

本市が積極的に取り組んできた子育て支援や学校教育などの推進といったソフト面の充実、新たな住宅開発や工業団地の整備など都市基盤の強化といったハード面の推進、また平成17年に開業したつくばエクスプレスの効果もあり、人口は着実に増加しています。これらの取り組みにより、まちのにぎわいと活力が市全体に広がり続けています。

### 空から見たみらい平地区



提供：茨城県土浦土木事務所つくば支所



# つくばみらい市は10年経ってどうなった？

～10年前、10年後のつくばみらい市を思い描いた人たちの声～

今から10年前の2016年（市制施行10周年）、10年後のつくばみらい市の展望についてお話しいただいたお二人を改めてお迎えし、あれから10年経過したつくばみらい市の“いま”について、詳しく取材したぞう！

- Q.つくばみらい市に住んでみて、住み心地はどう？
- Q.ここ10年で感じた、つくばみらい市の新たな魅力は？
- Q.10年後、つくばみらい市にどんなまちになってほしい？



なかじま しょう  
中島 翔さん／板橋地区在住

### 「都会と田舎の良いところ取りをしている」

発展しながらも、自然が残っているととても住みやすいです。都心に住んでいる友人が遊びに来た時に「ちょっと都会だけどこか田舎が残っているところがいいね」と話していて、便利でありながら過ごしやすい場所なのかなって思います。

### 「自然が多く、リラックスできる」

サッカーやキャッチボールをする子どもたちを見て、自然に触れられる場所が身近にあることが大きな魅力だと感じました。都心だと自然に触れられる機会がなかなかないので、自然の風に当たりながらリラックスできる環境があるのは良いですね。



### 「子どもが“楽しい”と思える環境づくり」

子どもたちが新しい趣味とか、何か楽しいと思えるきっかけになるような施設が増えたらいいなと思います。学校の勉強や運動以外にも「自分はこのことができるんだ」という体験を子どものころにしてほしいですね。



さとう あやか  
佐藤 文花さん／小絹地区在住

### 「変わっていないからこそ安心する」

自宅の周りは大きく変わった印象はありませんが、スーパーやコンビニ、公園などが今も変わらずあるのは安心します。この10年間で、転入してきた方がとても増えたと感じていますが、“住みやすい環境が整っている”から多くの方が来てくれたのかなと思いますね。

### 「まちと人がともに成長できるまち」

人口が増えてまちが発展していく中で、近所の公園で子どもたちがいきいきと走る姿を見ると、まちと人が共に成長できるまちはとても魅力的だと感じます。



### 「子どもたちが安心して遊べるまち」

子どもたちが安心して遊べるまちになってほしいです。また、今は共働きの人が多いと思うので、子ども1人でも安心して過ごせる場所がもっと増えたら嬉しいなと思います。